

研究発表

「メディアアコンテンツの地平へ、北米に
おける「砂の器」とその受容(試論)」

米國・コロンビア大学助教 角田 拓也

北米では、1989年にSoho Pressという出版社から「砂の器」の英訳本が出版されました。現在も購入は可能です。Soho Pressは1986年に創立されたサスペンス小説などの特定のジャンルに特化した商業出版社です。翻訳者はベス・キャリーという方で、清張以外にもジブリ作品関連書籍の翻訳や宮崎駿の通訳などもされています。タイトルは、Inspector Imanishi Investigates)です。直訳すると「今西刑事が捜査する」となりますが、キャラクターとしての今西警部補が前景化されているわけです。

今回は「ニューヨークタイムズ」に出た書評を紹介しましょう。ライターはハーバート・ミッドギャングといい、作家としても活動していたジャーナリストです。書評のタイトルは「Tea Ceremonies, Haiku And of course, a Body)です。直訳しますと、「茶道、俳句、そしてもちろん死体」です。ユーモラスである一方で、茶道、俳句という言葉で日本を前面に出しています。清張はここで「日本で最も人気のある作家の一人」として取り上げられています。加えて「刑事もの」や「警察もの」といったジャンルへの言及です。「フォレンジックノベル」、「科学捜査もの」などといった表現も使われています。特筆すべきは、ジョルジュ・シムノン(ベルギー)とニコラス・フリーリング(イギリス)といった、欧米の推理小説家の名前を比較軸として提示していることです。シムノンの場合はInspector Maigret(メグレ刑事)というキャラクターを中心に据えたシリーズものが非常に有名です。フリーリングの場合はアムステルダムが舞台で、ファン・デル・ファルクという警部補を主人公にした小説で知られています。キャラクターを売りにした有名な欧米の

推理小説家を明示することで、「Inspector Imanishi(今西刑事)」にフォーカスしながら清張の「砂の器」を評している、と分析することが出来ます。

本題のストーリーミングサービスの方に移りたいと思います。2017年から「砂の器」がストーリーミング可能になりました。英語タイトルは「Castle of Sand」(「砂の城」)



です。英語圏における日本映画史において、野村芳太郎の「砂の器」がどのような示唆を与えてくれるかを、メディアアジャ

ンル」というキーワードを導入して考えていきます。

クライテリオンはニューヨークを拠点に1984年に設立され、DVDやBlu-rayなどのソフト販売や、販売のためのライセンスング、デジタルリマスタリングなどに従事しています。特徴的なのは、ハリウッド主導のエンタメ作品よりも、ワールドシネマ(世界映画)の名作選に主軸を置いていることです。高いクオリティでのデジタル修復にも力を入れています。大学の授業でも100%クライテリオンよりリリースされたソフトは重宝されています。

2018年から映画専門の定額制動画配信サービス、クライテリオンチャンネルが開設されました。「砂の器」がこの独自のレーベルからストーリーミング配信され、現在も視聴できることは特筆すべきことです。現在、野村清張コラボ作品は5作品が視聴できます。「鬼畜」、「砂の器」と「影の車」、それから有名な「ゼロの焦点」と「張込み」です。

クライテリオンの公式サイトにベンジャミン・マーサーという映画評論家が、野村芳太郎監督について寄稿しています。クライテリオンの公式サイトに「The Crime Thrillers of Studio Maverick Yoshitaro Nomura」という表題で、直訳すると「撮影所の異端児、野村芳太郎の犯罪スリラー」

となります。黒澤明や大島渚は北米でも非常によく知られています。野村芳太郎はそうではなく、クライテリオン(マーサー)はここで野村監督を「ジャンル作家」と位置付けています。もう一点明記すべきは、ここで展開されている世代別の映画史観です。具体的には、黒澤明は撮影所黄金期にあたり、大島渚は松竹ヌーヴェルヴァーグの旗手であるという既存の世代対立に依拠しながら、野村芳太郎世代は、黄金期にとっては若すぎるが、大島のヌーヴェルヴァーグ世代ほど若くはなく、野村は「中間」に属する不遇な映画監督であるという構図が提示されています。

クライテリオンチャンネルのような特異なメディア環境で映画を視聴するユーザーにとって、野村清張の作品が今日どういった意味を持つのか。アテンションエコノミー(関心経済)の時代に推薦システムから「立ち現れる」日本映画という面がまずあります。また配信を通して「生き返る」メディア体験としての野村清張作品という面で考えることができます。